体験で学ぶ防災・減災

代表者　　一井瑛介（理学Ｂ２年）
構成員　　山口純平（教育Ｍ２年）綾部晃大（工学Ｂ２年）阿久津彩香（理学Ｂ２年）
倉本大雅（理学Ｂ２年）砂川泰輝（工学Ｂ２年）
中村茉由子（理学Ｂ２年）松下侑希（理学Ｂ２年）
砂田雅裕（理学Ｂ１年）多岐涼太（工学Ｂ１年）
原口光（工学Ｂ１年）山本怜央（工学Ｂ１年）

１．本プロジェクトの目的

地震が少ない山口県だが，実は何本もの活断層が通っています。しかし，このことを知らない県民も多く，地震に対する意識が低いように感じられます。近年，南海トラフが危険視されているように日本に住む私たちにとって地震は避けて通れないものであるので，起地震への興味関心を持つと共に防災・減災の意識を高めてもらいたいと思い，本プロジェクトを発案しました。

このことを実現するために，地域の方々や学生に起震車体験をしてもらうこと，防災・減災について学習するための研修合宿を行い，自分たちの知識向上，そしてその知識の周知を主な活動として計画しました。

２．活動内容

2-1　普段の活動

メンバー間での知識向上のため、地震や火山噴火などの自然現象について精通した人がほかの人に見聞を広めたり、個々人で調べ学習をして知識を向上させたりしました（図 1)。

図１　普段の活動の様子

2-2　起震車体験について

地域の方々もたくさん来場する七夕祭において起震車のブースを開設し，実際に体験をしてもらう計画を立てました。そのために，地域の方々へ協力のお願いや起震車の手配，小中学校への広報活動、さらに地震に関するポスターや非常時用品等を展示するための準備をメンバーで協力して行いました。ポスターは，小さい子どもにもわかりやすいように文章を簡潔にしたり，絵を多用したり工夫を凝らしました（図 2)。また、地震対策へどのくらいの知識と危機感があるかのアンケートも実施しよう準備をしていました。しかし，当日は豪雨のため延期となってしまいました。延期日での実施も考えたが，夏季休業中ということもあり運営に必要な人数が集まれない，そして起震車の再手配の手続き等もあることから七夕祭での実施は厳しいという結論に至りました。これまでの準備や協力してくださった方々のことを考えると非常に残念でしたが，準備を通して自分たちの知識向上も見られたので良い経験になったと思います。

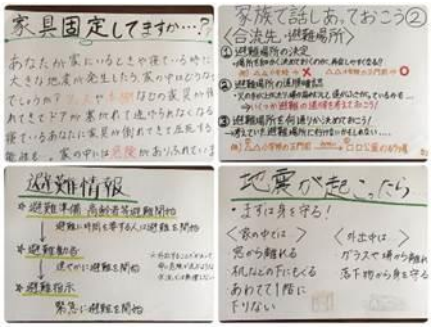

図２　ポスターの一部

2-3　防災・減災について学習するための研修合宿（熊本・長崎）

防災･減災を周知するにあたって自分たちの知識向上も大切だと思い，この研修合宿を計画しました。今回は，火山災害に焦点を置いて防災・減災について学習することを目的としたため，現在も火山活動が活発な阿蘇と雲仙に赴きました。阿蘇では火山博物館と中岳の火口の見学を行いました。博物館では，火山活動開始時から現在に至るまでの過程や噴火の様子を動くジオラマや映像で見ることができました。火口の近くでは，安全レベルの表示や噴火した際に噴石などから身を守るための退避壕を設けるといった防災対策がされていました。また、破壊されている建物もあり、噴火の恐ろしさを実感しました（図３）。雲仙では，がまだすドームと大火砕流体験館・土石流家屋保存公園を訪れ，火砕流・土石流について学習しました（図 4）。火山噴火というと噴煙が上がり噴石が降ってくるイメージが強かったが，雲仙普賢岳の噴火は火砕流・土石流による被害が大きいということを知りました。噴火直後だけでなくその後も天候など些細な変化に警戒する必要があるのだと感じました。この 2 日間で，現地に行ったことで初めて知ったこともあり，火山災害の認識が変わる部分も多々ありました。この学習を個人だけの学びにとどめず周知していきたいと考えています。

図３　中岳にある破壊された建物

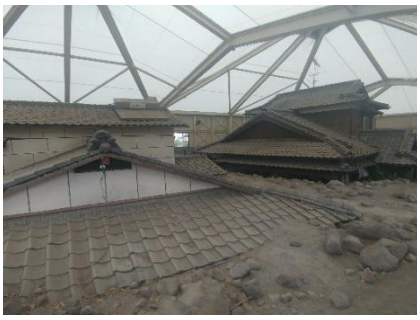

図４　土石流家屋保存公園

３．おわりに

当初予定していた主な活動は現在までにひと通り行ってしまいました。しかし，起震車体験の活動が思っていた通りに遂行できなかったのもあり，今後何かしらの活動を行いたいとも思っています。また，研修合宿もプロジェクトメンバー全員が行ったわけではないので，メンバー内で情報を共有したり，議論を重ねたりする機会も設けたいと考えています。残りの期間も充実した活動ができるように頑張りたいと思います。